

生物学研究科・生物学専攻 2023年度新入生紹介



生物学研究科
生物学専攻修士課程1年次

佐藤 航

所属研究室 : 南研究室

専門分野 : 地球化学・化学海洋学

出身学科 : 生物学部 海洋生物科学科

一言コメント

現在行っている研究は、海水中の微量金属元素と海洋堆積物の相互作用についてです。微量金属元素は現代の海洋物質循環のトレーサーであり、古環境復元のプロキシとして大きな可能性を秘めていると注目されています。学部時代から興味があったグローバルな海域の研究をしており、特に注目しているのはアルミニウム (Al) です。海底直上溶存態Alの分布は、堆積物中の鉱物組成に大きく関係しており、溶存態Alの分布を決める上で重要なのは、陸上の風化作用ではないかという仮説に対し、有益なデータと情報を与え国際共同観測計画GEOTRACESに貢献したいと考えています。

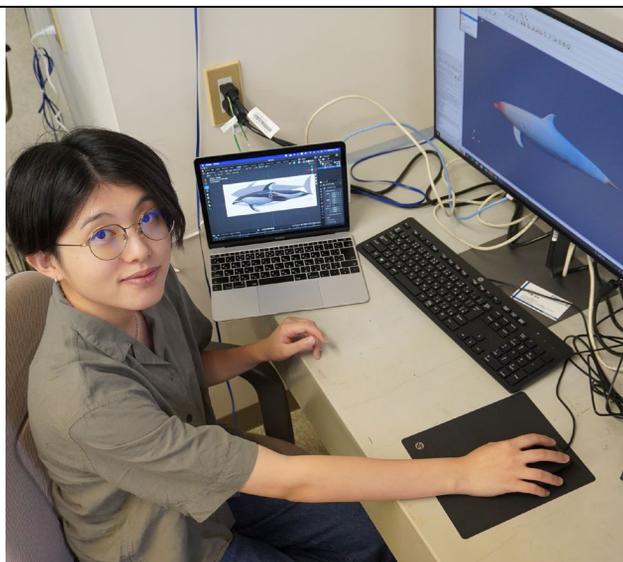
所属研究室 : 北研究室

専門分野 : 鯨類学

出身学科 : 生物学部 海洋生物科学科

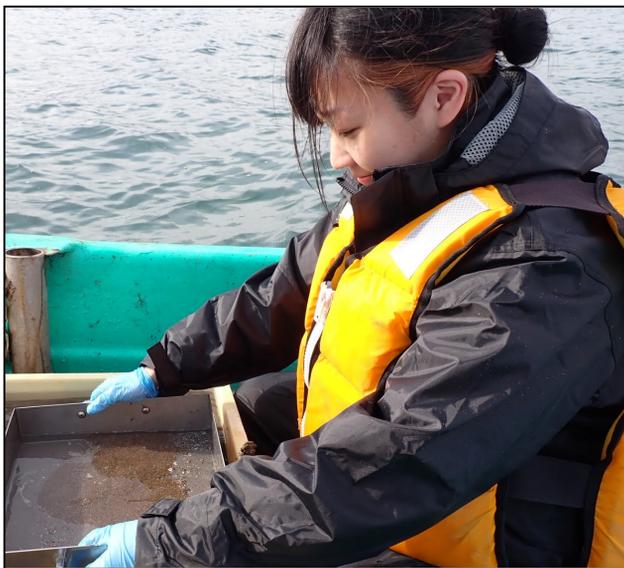
一言コメント

学部時代から形態学に興味があり、90種近く存在すると言われる鯨類の多様な形態を流体力学的に比較したいと考え、OpenFOAMというオープンソースプログラムを独学で勉強してきました。しかし、解析に用いるコードの検討に限界を感じ、学部時代は興味があったもう一つの分野である、骨からの種判別を遺伝学的手法を用いて実施しました。現在は、湘南キャンパスの先生やドクター生に教えを受けながら、学部時代に行いたかった流体力学を用いた鯨類の形態比較に取り組んでいます。この研究を進めることで、鯨類の生態解明の一助になればと考えています。



生物学研究科
生物学専攻修士課程1年次

須田 さくら



生物学研究科
生物学専攻修士課程1年次

高橋 京花

所属研究室 : 櫻井研究室

専門分野 : 水産増殖学

出身学科 : 生物学部 海洋生物科学科

一言コメント

潜砂性二枚貝の摂餌に関する研究を行っています。講義を受ける中で二枚貝の生態の多様さに面白味を感じたことと、北海道が日本有数の二枚貝の産地であることから、二枚貝に関する研究に取り組もうと考えました。学部時代はコタマガイという潜砂性二枚貝の分布や漁場の底質環境、マクロベントス群集の季節的変化を調査し、漁場環境の評価を行いました。私はこれまでに行った勉強や研究が楽しく、このまま研究を続けたいと思い、大学院に進学しました。今後も北海道というフィールドを活かして、複数種の二枚貝を対象に研究を進めていこうと考えています。

所属研究室 : 櫻井研究室

専門分野 : 水産増殖学

出身学科 : 生物学部 海洋生物科学科

一言コメント

学部時代にマナマコについての研究を行いました。その中で多くの課題が見つかりマナマコの増養殖をさらに発展させたいと思いついて進学しました。大学院では、自分で研究と方法を決めるため責任が大きくなりますが、やりたいことを深くまで突き詰めることができます。また、研究について教員・院生と話すことが多いので、たくさんの刺激をもらい日々成長できるように努めています。現在、マナマコは種苗生産が行われていますが放流後の死亡率が高いことから、放流通地を明らかにするためにマナマコ稚仔の底質選択について研究を行っています。



生物学研究科
生物学専攻修士課程1年次

中川 恵佑

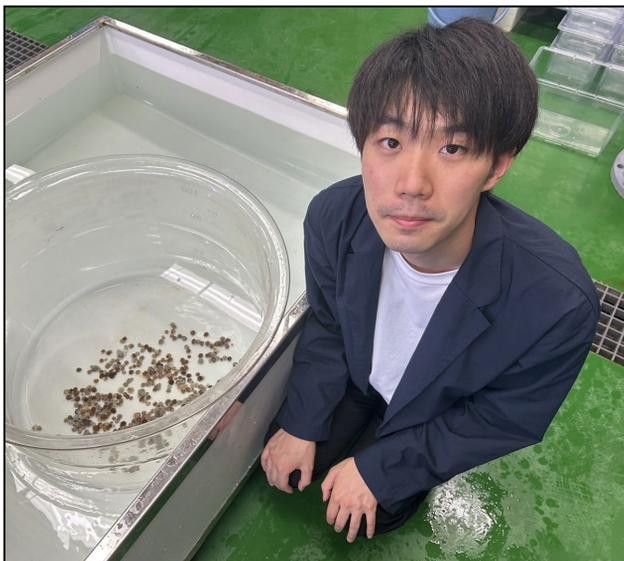
所属研究室 : 櫻井研究室

専門分野 : 水産増殖学

出身学科 : 生物学部 海洋生物科学科

一言コメント

実家が漁業を営んでおり、家業を継ぐ以外の方法で地元の漁業に貢献できないかと考え、この大学に進学しました。ホタテガイの成長に関する卒業研究を行う中で、本種についてさらに研究を行いたいと思い、大学院に進学しました。大学院では、より高いレベルの知識や研究に関わる能力が求められますが、より専門的な研究が可能となります。現在は、ホタテガイの摂餌活動と飼育環境の関係の解明を目的として、野外調査と室内実験を行っています。今後の調査を通して現場に役立つような成果が得られるよう頑張っていきたいと思っています。



生物学研究科
生物学専攻修士課程1年次

佐藤 海斗